

【新刊情報】2025年9月

沈没寸前の「この国の基盤」をどうするか？

『弁護士不足——日本を支える法的インフラの危機』

内田 貴 編著 ちくま新書



経営、企業法務、国際取引、AI、地方……活躍の場はもっとある。

リーガル・リテラシーを用いてあらゆる課題や実務に対応する弁護士は、社会インフラの要である。ときにこの国の形を整え、またビジネスの現場で攻守にわたり力を発揮する。

しかしこの人材が質・量ともに危機的な状況である。

本書では、ロースクール・司法試験という人材の供給過程を徹底的に検証する。

彼らが支えるべき経済や社会のあらゆる活動——経営、企業法務、国際取引、AI、テクノロジー、地方など、主に法廷外での活躍の必要性和可能性を洗い出し、アップデートする。

■目次

はしがき 内田貴

第1章 「弁護士不足」とはどういうことか 内田貴

1 なぜ実務法曹志望者が減少しているのか／2 法学の存在意義と役割を考える／3 司法試験志望者数が減少している理由／4 社会の中のリーガル・リテラシー／5 多様な人材を集めるための方策／6 制度設計はどうあるべきか

第2章 法曹養成改革のタテマエと現実 高畑正子／山田重則

1 平成の司法制度改革のもくろみ／2 内輪からの反対と抵抗／3 迷走する政府の対応／4 現在の法曹養成制度の問題点／5 国際法務戦略の視点からの問題点／6 法曹の質と数を確保するには一利用者視点から

第3章 弁護士ができる仕事、弁護士という人材

1 AI時代に必須のリーガル・リテラシー 富山和彦 / 2 弁護士はビジネスの世界でも活躍できる 貝沼由久
3 法とテクノロジーの交差点 AIが拓く弁護士の新たな可能性 元榮太郎／
4 企業内弁護士のニーズは右肩上がり 榑原美紀 / 5 「必要とされる」地方での弁護士 松本三加
6 弁護士はルールメーカーになれるのか 阿達雅志

おわりに一待ったなしの司法人材改革 久保利英明

■執筆者一覧

内田貴（うちだ・たかし）＝編著 東京大学名誉教授、弁護士。専門は民法学。／高畑正子（たかはた・まさこ）株式会社 Exponential Design ジェネラル・カウンセラー、弁護士。／山田重則（やまだ・しげのり）弁護士（鳥飼総合法律事務所）。／富山和彦（とやま・かずひこ）株式会社 IGPI グループ会長、株式会社日本共創プラットフォーム（JPiX）代表取締役会長。日本取締役協会会長。／貝沼由久（かいぬま・よしひさ）ミネベアミツミ株式会社代表取締役会長 CEO。弁護士（日本・米国ニューヨーク州）。／元榮太郎（もとえ・たいちろう）弁護士ドットコム株式会社代表取締役社長兼 CEO、弁護士法人 Authense 法律事務所代表弁護士。／榑原美紀（さかきばら・みき）マクニカホールディングス株式会社執行役員ジェネラル・カウンセラー、弁護士（日本・米国カリフォルニア州）。／松本三加（まつもと・みか）弁護士（浜通り法律事務所）。／阿達雅志（あだち・まさし）参議院議員、総理補佐官（菅政権）、総務副大臣。弁護士（米国ニューヨーク州）。／久保利英明（くぼり・ひであき）弁護士（日比谷パーク法律事務所）。元 大宮法科大学院大学教授。（以上、肩書・所属は2025年7月現在のもの）